

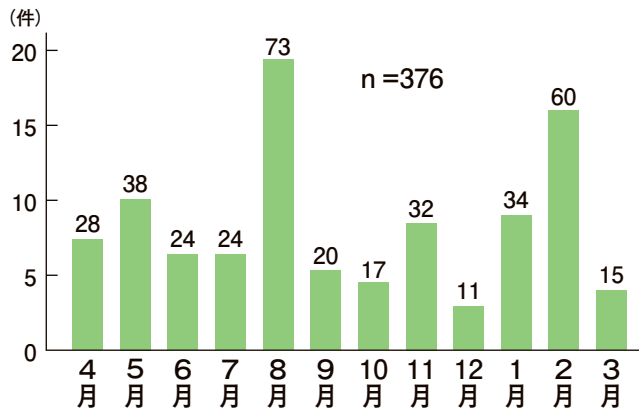
# そなえよつねに保険 事故データの分析

本誌の2012年3月号で、安全確保・事故補償のシステムループについてお話ししました。この中で、補償適用事故データの分析によって事故の傾向や原因を明らかにして対策を講じ、事故ゼロを目指すことについて述べました。今回は、2010年度に発生した事故について分析いたしましたので報告します。今後の、より安全な活動のために役立てていただければ幸いです。

## 発生月別

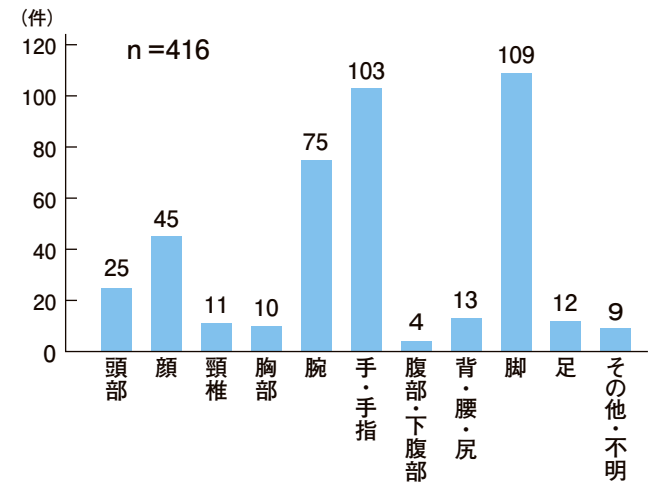
スカウト活動が活発になる8月と、スキー・スケートなど冬季の活動が展開される1月・2月に事故が集中し、この3か月だけで全体の45%を占めていました。この時期の事故発生を抑制することができれば、全体の事故件数も減少するのではないかと思います。

5月と11月も休日が多く、気候的にも活動がしやすいからか、事故件数がやや多かったようです。活動が活発になればそれだけ事故のリスクも見え隠れするというを示唆する結果といえます。



## 部位別

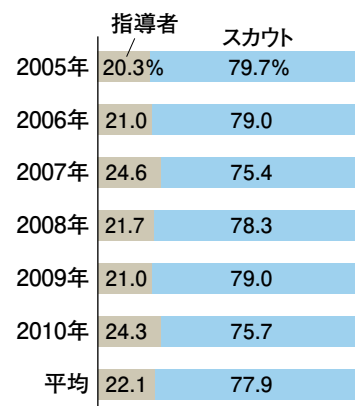
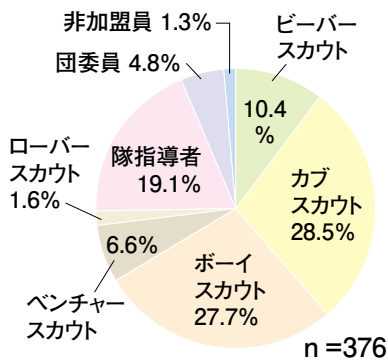
例年と同じく、全体の7割以上を上肢・下肢のケガが占めました。ケガとして多い骨折、捻挫、切り傷、刺し傷、虫刺されがこの部位に圧倒的に多かったことが関係していると思われます。顔のケガでは工具や他人の腕等が当たってケガをしたケースも目立ちました。歯が折れてしまったケースも報告されています。



## 部門別

部門別ではカブとボーイがそれぞれ3割近くを占めていました。年代では前年までと同様に10歳代が全体の半数を占めて、事故多発年代となっています。

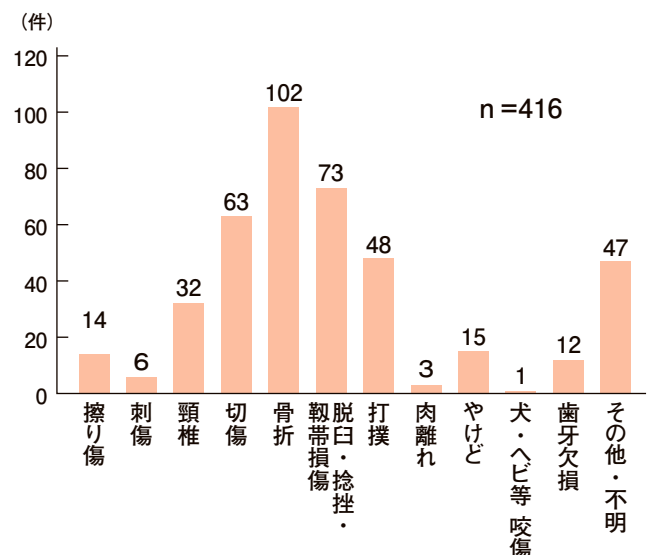
指導者の事故は前年(2009年度)より14件増加し、事故全体に占める割合も24%と、前年の20.7%よりも増加しています。数年間にわたって指導者の事故に関する注意喚起がなされてきましたが、減少の気配がみられないのは残念なことです。



## 傷病別

骨折は最も多い傷病で、全体の1/4を占めました。骨折のほとんどは走っている時に転んだり、自転車やスキーで転倒したり、ということが原因です。骨折の他、脱臼・捻挫等、打撲、肉離れといった運動器系のケガが全体の過半数を占めています。

その他の傷病の約半数は虫刺されです。



## 部門別傷病 1～3位

どの部門でも骨折が多いという傾向はここ数年同じですが、部門によって多い傷病に多少の違いがあります。例えば刃物をよく使う機会があるボーイ年代では切り傷が最も多くなっています。指導者では運動器系の傷病が占めています。

	1位	2位	3位
BVS	骨折 (10)	打撲 (7)	裂傷 (6)
CS	骨折 (25)	脱臼・捻挫・靭帯損傷(21)	切り傷 (14)
BS	切り傷 (35)	骨折 (25)	脱臼・捻挫・靭帯損傷 (14)
VS	骨折 (10)	切り傷 (5)	擦り傷 (5)
RS	骨折 (2)	切り傷 (1)	脱臼・捻挫・靭帯損傷 (1)
指導者	骨折 (29)	脱臼・捻挫・靭帯損傷 (27)	打撲 (16)

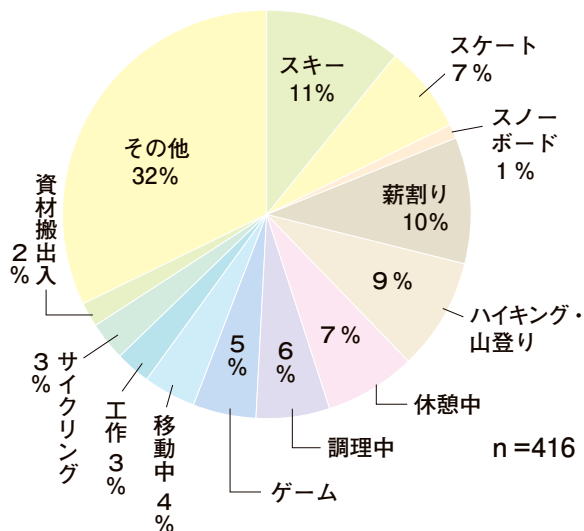
( ) は件数

## 活動内容別

件数の多い活動を中心にまとめました。

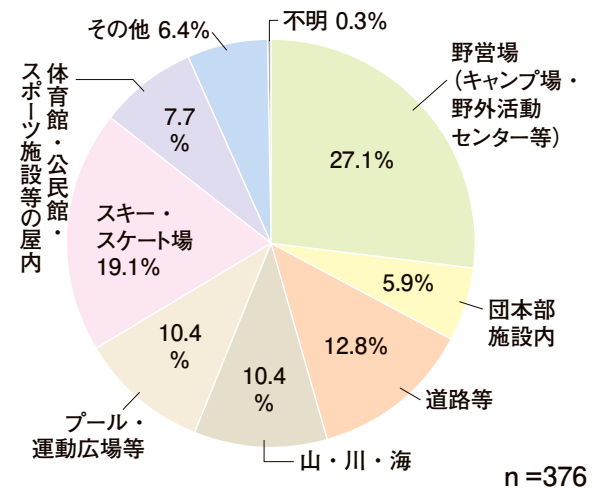
スキー、スケートなどでの事故の多さが目立ちます。薪割り中の事故も1割を占めました。

25件が本来のプログラムとは関係のない休憩中に発生しています。鬼ごっこをしていて転倒した、木登りして木から落ちた、他の者とぶつかった、物が当たった、などが原因です。休憩中も何かが起こるかもしれないと注意する必要があります。



## 場所別

圧倒的に野外での事故が多いのが特徴でした。野営場が3割近く、スキー、スケート場が2割を占めます。道路での事故は自動車との交通事故や自転車の転倒によるものがほとんどです。



発生月、部門、部位、傷病内容、活動、場所と、それぞれで分析しましたが、これらは相互に関連しあっていることがわかりただけだと思います。指導者の皆様はこれまで経験的に事故の予測をしてこれたと思いますが、今回のデータが、より注意すべき点は何なのか、どういところで危険(リスク)があるのかを考える際の参考になることを願います。

安全委員会